

経営方針と対処すべき課題（有価証券報告書より）

1 目指す姿と数値目標

企業理念

Bringing value to life. 物流を止めない合言葉の下、総合物流企業の枠を超え、中核事業の深化と新規事業の成長で、未来に必要な価値を共創する

当期純利益
2,000～3,000億円

ROIC
6.5%以上

ROE
8.0～10.0%

事業投資規模
1.4兆円

2 中長期の経営戦略

1. 両利きの経営（AX）

既存中核事業を深化させると同時に新規成長事業を進化。物流・エネルギー輸送・クルーズなど事業ポートフォリオ最適化

2. 事業変革（BX）

アンモニア燃料タグボート「魁」の世界初実運航で最大95%GHG削減。洋上風力・宇宙・船舶リサイクルなど新領域開拓

3. 人材・組織変革（CX）

人的資本充実とグループ経営変革、ガバナンス強化で組織基盤を整備

4. デジタル化推進（DX）

デジタル基盤整備で物流効率向上。Parts Express買収やベルギー医薬品倉庫でAMR・AGV・自動仕分けシステム導入

3 対処すべき課題

① 中期経営計画完遂

- ・ 2026年3月期までにSail Green戦略を遂行し既存事業深化と新規事業開拓を加速
- ・ 地政学リスク対応で物流ネットワークの安定性確保が急務
- ・ 投資決定案件約9,500億円の着実な実行管理

② 脱炭素・エネルギー転換

- ・ アンモニア・LPG・LNG等多様な次世代燃料への転換加速
- ・ 電気推進タグボート2026年末運航開始に向けた国内メーカー協力体制構築
- ・ 洋上風力発電事業でCTV運航やトレーニング等で地域密着型展開

③ 新規事業・成長分野開拓

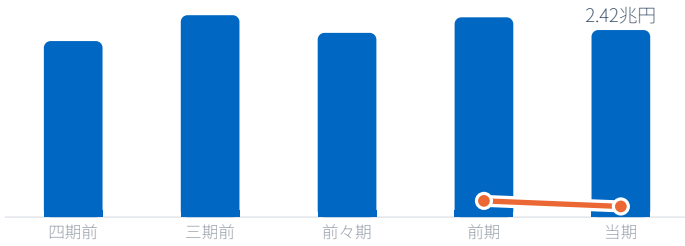
- ・ 物流事業の自動車・ヘルスケア・リテール特化で高付加価値化
- ・ 宇宙関連事業でロケット洋上回収やJAXA採択事業推進
- ・ オリエンタルランドとのクルーズ事業提携で2028年度就航目指す

面接で使えるポイント

- ・ 2030年までにScope1+2で2021年度比45%GHG削減という野心的目標達成に向け…
- ・ 物流事業を中核と位置付け、Parts Express買収やベルギー医薬品倉庫稼働でヘルスケア・自動車分野の高付加価値サー…
- ・ ENEOSオーシャン承継によりLPG船33隻体制で世界最大規模運航事業者へ成長し、安定的エネルギー輸送の責務を果たす

証券コード 9101

業績の推移（売上＝棒 / 営業利益＝線）



※営業利益は直近2期のみ開示（有報の様式変更による）

暗記する数字3つ

連結売上高
2.42兆円営業利益率
5.7%財務健康度
58点 / 100点

将来性 晴れ / 就活偏差値 70.1（当サイト算出の参考指標）

平均年収
1,555万円
海運業内 2位/11社平均年齢
37.8歳
海運業内 9位/11社平均勤続
13.9年
海運業内 5位/11社女性管理職
15.4%
海運業内 2位/8社男性育休
85.9%
海運業内 2位/6社

※平均年収は提出会社単体・有価証券報告書ベース。順位は同33業種内の掲載企業での比較。

ここから下は自分で書く（面接で話すこと）

志望動機の核

上の数字・事業と接続して書く

自分の経験との接点

逆質問メモ

※1つはデータ起点で（例：勤続年数が長い要因は…）

直近ニュース十一言

参考: 日本郵船、新造レストランシップ「AMANE（海音）」発表。船

